



発行：新社会党芦屋総支部

連絡先：芦屋市親王塚町1-4-103 TEL/FAX 32-4095

2022年8月号

# 議論抜き、政治利用

## 元首相の国葬、大きくなる「反対」の声

政府・自民党は安倍晋三元首相を歴史的な「宰相」と祭り上げ、閣議決定で元首相の「国葬」を9月に行うとしています。しかし彼が「一強」を武器に国会を軽視し、社会を壊してきた事実は消せません。新社会党は「国葬」に反対です。岸田内閣は、故安倍晋三

元首相の葬儀を「国葬」として9月27日に執り行うと発表しました。その意義を「御功績は誠にすばらしいものであります。外国首脳を含む国際社会から極めて高い評価」としていますが、根拠は希薄です。そこには、人の死を政治的に利用する自民党の狙いが透けて見え

ます。安倍元首相は「憲法遵守義務」を無視し、改憲の旗振りど、格差と貧困の拡大、戦争ができる国にし

た張本人です。新社会党は、左記の声明を出し、「国葬」に反対しています。

新社会党機関紙を購読しませんか  
○中央版 月4回発行  
タブロイド版・月700円  
○兵庫版 月2回発行  
タブロイド版・月400円



芦屋市議 山口みさえ



新社会党社会福祉部長 要コウタ

みなさまの声をお聞かせ下さい

### 新社会党声明 元首相の「国葬」に反対する

政府は、参院選遊説中に銃撃され亡くなった安倍晋三元首相について9月下旬、日本武道館で国葬を執り行う方向で準備に入った。

銃撃という暴力は許されず、命を絶たれた元首相には政治的見解を異にしていようと哀悼の意を表するものである。しかし、8年を超える長期安定政権を維持したことを最大の功績として国葬を実施しようとする考えに対し、新社会党は以下の観点からその実施に反対する。

長期政権そのものへの国民の評価は大きく割れている。長期政権下で行われた解釈改憲による集団的自衛権行使を可能にした「戦争法」をはじめ一連の悪法、森友・加計・桜を見る会などの公文書改ざんや廃棄など、将来の社会に伝えるべき歴史そのものを変える政権運営を批判する声は大きい。

さらに、格差と貧困に苦しむ国民の生活は、アベノミクスの失敗、新自由主義政策を一度として省みなかった政策によるものであり、国会の場で議論し尽くさねばならない課題である。

これらを不問に付すかのように、素晴らしい貢献をした政治家と礼賛し、国民に弔意を求めることはあってはならない。

さらに「国葬」には、法的根拠がない。時の政権が恣意的に葬儀を利用することは許されない。十分な国会での議論と合意が求められる。民主主義が改めて問われている今こそ、冷静に「国葬」を問わねばならない。

# 芦屋市の実態に即したコロナ対策を

新型コロナウイルス感染症は第7波を迎え、まだ収まる気配がありません。2020年2月に芦屋市が対策本部を設置した当初から、山口みさえは国の動向を見ながら芦屋市の実態に即した独自の対策を打ち出すべきと訴え続け、対策本部に対して質問やまた議会にお

いても毎回発言をしてきました。70年代以降、行き過ぎた行革、効率化を求め過ぎたため、医療、保健、救急体制が脆弱化し、今回のような緊急時に対応しきれないことが露呈しました。山口みさえは、他の議員や市民のみならずと協力しながら、芦屋

病院の充実、芦屋保健所の存続、芦屋消防の人員及び救急体制の整備を訴え改善を求めてきました。また国、県、市が縦割り行政では市民の命や健康が救えないと、緊急臨時交付金などを審議する際、市が市民の実態に即して施策や予算が少しでも使いやすくてできるよう



山口みさえ議員  
議会では何度もコロナ対策について発言

に国、県からの権限移譲も求めてきました。自宅療養者の物資の準備は感染が落ち着いているときに県と役割分担して備えておこなうてはいけないことや、抗原検査キットも高齢者施設などに支給するだけでなく正しい使用方法の指導や、水道、保育、教育現場などにも備えておくよう常に先手の対策を求めています。

## 戦後77年、戦争を繰り返さないために

市役所北館展示ロビーにて開催された「原爆の絵画」展に行きました。

広島の高校生が被爆体験者の証言を元に描いた絵画はまるでその場で見たかの様なりアライ

とか思い出しながら伝えたい体験者と、何度も話したい修正を重ね完成された作者の尽力が滲み出ていました。

まった」とありました。絶望的な光景が広がり、日常の感覚が麻痺し、身も心も人が人でなくなっていく様子を目の当たりにされた方々の苛烈さは想像するに余りあります。

人を見た」と子どもの頃の体験談を話して下さいました。



漫画「はだしのゲン」から

70年余り昔の記憶を辿り何があり、者として体験者の解説も合わせて見るとあまりの悲惨さに涙が出てきました。ある作品の解説文に「戦争で人の心が変わってし

先日記り合った市内在住80代女性は「奈良県に縁故疎開をしていたために被害はなかったが、とにかく物資、特に食べ物がない。列車で検挙される

私が今読み返している「はだしのゲン」にも同じ描写があり、祖父の体験談にもヤミ米の話がありました。戦争を体験された方のお話は本当に貴重です。戦後77年が経ちますが、絶対に繰り返してはならないと声を上げ続けることを改めて決意しました。